

『ビタミンと肝臓(1) ビタミンD』

肝臓川柳

…肝臓川柳……………ノノノノノ



『肝臓も 元気ハツラツ ビタミンD』

(今回は某CMのパロディーでってことで…)

……………ノノノノノ

ビタミンというと、何か体にいいものとか野菜とかをイメージし易いですが、生物の生存や生育に微量に必要な栄養素の一つで13種類あります
 その中でビタミンD (VD)は骨の形成に重要な働きをしますが、紫外線を受けた皮膚で生合成されて(一部は食物からも補給されて)体内に入り、まず肝臓で代謝され『25(OH)D』になります
 その後腎臓でさらに代謝されますが、肝臓に障害があると『25(OH)D』が形成されず低下します↓↓↓
 肝硬変では『25(OH)D』が著明に低下しています↓↓↓

★★肝硬変で骨が弱い原因になっているかも知れません

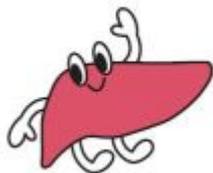
また、ビタミンDは免疫に関与しています

2年前に欧米でC型肝炎のインターフェロン治療にビタミンDを併用したところ著明に成績が向上した(ウイルス消失率43%→85%)と報告され、一躍注目されました!!

ビタミンDの免疫調節作用がウイルスの排除に関与している可能性が考えられていますがまだ明らかにされていません

しかしその後の追試でもC型肝炎の治療に効果がありそうです。

副作用はなく、強い抗ウイルス薬が使用出来ない人には朗報となっています



これだけ覚えておけば損はない!

今 回 の ポ イ ン ト

ビタミンDは骨の形成に重要な働きをします

肝臓が障害されるとビタミンDの代謝ができなくなり代謝物の生成が低下

肝硬変患者の骨が弱い原因となっているかもしれません

またビタミンDは免疫にも関与しており、C型肝炎のインターフェロン治療の成績が向上したとの報告されております

ビタミンDの免疫調整作用がウイルス排除に関与している可能性が考えられています

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)